

COPD患者における臭化チオトロピウムのハンディヘラーとレスピーマットによる臨床効果の比較検討

渡邊直人、牧野荘平

東京アレルギー・呼吸器疾患研究所

【目的】COPD患者における臭化チオトロピウム(TIO)のハンディヘラー(HH)とレスピーマット(RMT)の臨床効果を比較検討した。

【対象】HH群18名(平均70.3歳、男性:14名、女性:4名)。慢性気管支炎3名、肺気腫15名。RMT群17名(平均66.8歳、男性:16名、女性:1名)。慢性気管支炎1名、肺気腫16名。すべて喫煙歴があり、現在も喫煙している者はHH群5名、RMT群5名であった。

【方法】HHとRMTを対象患者に投与し、その1ヶ月投与前後の症状(咳の回数、痰の量、息切れの程度、睡眠時覚醒)をアンケートにより評価した。

【結果】HH群では、総合評価で改善が14名(78%)、不変が3名(17%)、悪化が1名(5.6%)であった。咳の回数は平均2.4→1.7点に、痰の量は平均2.4→1.8点に、息切れの程度は平均3.9→3.5点に、夜間覚醒は平均1.6→1.5点に各々減少した。RMT群では、総合評価で改善が11名(65%)、不変が5名(29%)、悪化が1名(6%)であった。咳の回数は平均1.8→1.4点に、痰の量は平均1.9→1.4点に、息切れの程度は平均2.9→2.3点に、夜間覚醒は平均1.5→1.1点に各々減少した。どちらのデバイスも有害事象は認められなかった。

【考察】COPD患者の臨床症状にTIOの有効性が示唆され、特に息切れの軽減効果に優れていた。また、咳嗽と共に喀痰量の減少を認めた。HHとRMTによる咳、痰、息切れに対する効果の差は認められなかったが、夜間の覚醒度合いはRMTの方が少なかった。